

## (3) 授業の質的改善のプロセス

2 (2)授業の見直しと質的改善を図るための手立てで示した方法に沿って、実際に授業の質的改善に取り組んだプロセスを紹介します。

## イ B校の授業改善のプロセス

実践 1  
「6月」

単元名：表現を味わい、言葉の世界を広げる

教材名：新しい短歌のために（光村図書2年）

単元の目標：①筆者のものの見方や表現の仕方などを読み味わうことができる。

②描写を工夫して物語を作ることができる。

## ■生徒の実態を把握する。

「生徒の姿チェックシート」で、過半数の生徒ができていると思われる項目にチェックを付けた。チェックが付かなかった項目は、以下の通りである。

主に 主体的な学び	… イ , ウ
主に 対話的な学び	… オ , カ
主に 深い学び	… キ , ク , ケ , コ



## ■指導事項（身に付けさせたい力）を明確にする。

生徒の実態を踏まえ、以下の指導事項を指導することにした。

## 〔C読むこと〕

イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。

## 〔B書くこと〕

ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。

## ■教材を分析する。

この教材は、1300年もの歴史をもちながら、現代でもなお新たな表現の形が生み出されている短歌の味わい方を述べたものである。短歌についての基礎知識を身に付けさせることはもちろんであるが、短歌は、五・七・五・七・七という少ない字数の中に作者の思いや情景が凝縮されているため、一つ一つの語句に注意して、想像を膨らませながら読み味わうことができるようになってほしい。また、短歌を読み味わい、それを表現する言語活動につなげることも可能だと考えた。

①  
つかむ

## ② 構想する

## ■適切な言語活動を設定する。

「書くこと」の言語活動例に、「ア 表現の仕方を工夫して、詩歌をつくったり物語などを書いたりすること」が挙げられていることを踏まえ、想像を豊かに広げて、短歌から考えられる物語を書くという言語活動を設定した。

## ■単元全体や1単位時間の指導計画を立てる。

①つかむ の段階で使用した「生徒の姿チェックシート」でチェックが付かなかった項目を基に、本単元で改善を目指す生徒の姿を決定した。そして、単元の指導計画を立てる中で、取り入れることができそうな手立てについて考えた。

	本単元で改善を目指す生徒の姿	「手立てシート」に示された手立てを基にして考えた手立て
主に主体的な学び	イ 自分の考えをもって、粘り強く学習に取り組もうとしている。	A⑩ショートストーリーの元になる短歌を生徒数以上に準備し、その中から自己選択できるようにする。
主に対話的な学び	カ 対話を通して多様な考えを得て、自らの考えを深めている。	B⑯出来上がった作品をグループ内で読み合い、互いの作品を評価する場を設定することで、自らの考えを深めることができるようにする。
主に深い学び	ク 学習の中で得た情報を精査し、自らの考えを形成している。	C④短歌からどのような情景や心情が想像できるか、自分自身のイメージを整理できるように、ワークシートの構成を工夫する。

※記号ア～コは、「生徒の姿チェックシート」の記号に、A①～C⑮は、「手立てシート」の記号に対応している。

指導計画（全 5 時間）

※本単元で目指した「生徒の望ましい姿」に対する手立て…



③ 実践する

次	時間	学 習 活 動	手 立 て
一	1	○学習の見通しをもつ。 ○教科書を読み，短歌の形式や表現の特色を知る。	
二	2	○教科書掲載の短歌について，用いられている語句から心情や情景を想像する。 ○一人一首ずつ短歌を選ぶ。	A⑩ ショートストーリーの元になる短歌を生徒数以上に準備し，その中から自己選択できるようにする。
	3	○選んだ短歌を分析し，想像を膨らませる。 ○教師が示したモデルを参考にして，短歌から考えられるショートストーリーの設定やあらすじを考える。	C④ 短歌からどのような情景や心情が想像できるか，自分自身のイメージを整理できるように，ワークシートの構成を工夫する。
	4	○前時に考えた設定やあらすじを基に，ショートストーリーを書く。	
三	5	○班で作品を読み合い，感想を交流する。 ○単元の学習を振り返る。	B⑯ 出来上がった作品をグループ内で読み合い，互いの作品を評価する場を設定することで，自らの考えを深めることができるようにする。

## ■生徒の変容と指導との関連を考える。

本単元で目指した生徒の姿（記号イ、カ、ク）を実現することができたかどうか、実践を通して見られた生徒の様子について、振り返りを行った。（○成果、●課題）

主に 主体的な学び イ 自分の考えをもって、粘り強く学習に取り組もうとしている。

A⑩ショートストーリーの元になる短歌を生徒数以上に準備し、その中から自己選択できるようにする。

○気に入った短歌や興味のある短歌を選ばせたことで、生徒は粘り強く学習に取り組むことができた。また、同じ短歌でショートストーリーを創作する生徒をつくらなかったことで、一人一人が自分の課題にしっかり向き合うことができた。

●短歌の印象や言葉の響きを大切にさせたかったので、教師による解説を行わなかったが、生徒によっては、短歌の読み取りに苦勞する生徒もいた。ヒントカードなどを準備しておけば、更に粘り強く学習が進められたのではないかと感じた。

主に 対話的な学び カ 対話を通して多様な考えを得て、自らの考えを深めている。

B⑯出来上がった作品をグループ内で読み合い、互いの作品を評価する場を設定することで、自らの考えを深めることができるようにする。

○出来上がった作品を読み合って評価する活動では、付箋に記入させてやり取りをさせたことで、時間を有効に使うことができた。また、付箋に記入するだけでなく、自然に評価を述べ合う様子も見られた。

●評価のコメントを見ると、感想を伝え合うことにとどまったものが多く、深まりが感じられなかった。評価の視点を明示し、それに沿って評価を書かせる必要があったと思う。

主に 深い学び ク 学習の中で得た情報を精査し、自らの考えを形成している。

C④短歌からどのような情景や心情が想像できるか、自分自身のイメージを整理できるように、ワークシートの構成を工夫する。

○1枚のワークシートの中に、ショートストーリーを書くまでの手順、教師作のモデル、生徒自身が考えを整理する欄を盛り込んだ。生徒は、例を参考にしながら自分の考えを整理し、ショートストーリーの設定やあらすじを書くことができた。

●出来上がった作品を見ると、教師作のモデルにとらわれ、創造性に欠ける生徒もいたので、どのようなモデルを示すのが適切か、検討する必要があると感じた。

単元名：関わりの中で さまざまな関係を捉え、考えを深める

教材名：字のない葉書（光村図書 2年）

単元の目標：①人物の言動の意味を考え、人柄や心情を捉えることができる。

②心情が効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くことができる。

### ■生徒の実態を把握する。

「生徒の姿チェックシート」で、過半数の生徒ができていると思われる項目にチェックを付けた。チェックが付かなかった項目は、以下の通りである。

主に 主体的な学び	…	ウ
主に 対話的な学び	…	オ , カ
主に 深い学び	…	キ , ク , ケ , コ



### ■指導事項（身に付けさせたい力）を明確にする。

生徒の実態を踏まえ、以下の指導事項を指導することにした。

#### 〔C読むこと〕

イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。

#### 〔B書くこと〕

ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。

### ■教材を分析する。

この教材は、筆者である向田邦子が、父親に関するエピソードを基に書いた随筆であり、筆者が父からもらった手紙に関するエピソードと、末の妹に関わるエピソードの2つから成る。言葉にできない思いや素直に言い表せない父親の心情を、行動を手掛かりにして、読み取ることができる教材である。また、心情が効果的に伝わるように、エピソードを加えたり、描写を工夫したりしている作者の書きぶりを、生徒自身の表現に生かしてほしい教材である。

② 構想する

■適切な言語活動を設定する。

登場人物の言動に着目して、その人柄や心情を読み取る学習を通して、描写の工夫を捉えさせる。描写の工夫を学んだ後、生徒自身の実生活を振り返って、「人生を変えてくれた人」というテーマで随筆を書くという言語活動を設定した。

■単元全体や1単位時間の指導計画を立てる。

①つかむの段階で使用した「生徒の姿チェックシート」でチェックが付かなかった項目を基に、本単元で改善を目指す生徒の姿を決定した。そして、単元の指導計画を立てる中で、取り入れることができそうな手立てについて考えた。

	本単元で改善を目指す生徒の姿	「手立てシート」に示された手立てを基にして考えた手立て
主に主体的な学び	ウ 学習を振り返り、自分が学んだことを理解している。	A⑯振り返りの視点を示すことで、自分の学びのよさや課題に気付くことができるようにする。
		A⑰単元の学習を通して、どのような力が身に付いたか振り返る場を設定する。
主に対話的な学び	オ 対話を通して多様な考えを得て、自らの考えを広げている。	B⑦考えを広げる対話になるように、ペア、グループなど、話合いの形態を工夫する。
主に深い学び	ク 学習の中で得た情報を精査し、自らの考えを形成している。	B⑮グループ内で考えを交流し、自他の考えを整理して考えた上で、自分の考えを書かせる。

※記号ア～コは、「生徒の姿チェックシート」の記号に、A①～C⑮は、「手立てシート」の記号に対応している。

指導計画（全 6 時間）

※本単元で目指した「生徒の望ましい姿」に対する手立て…



③ 実践する

次	時間	学 習 活 動	手 立 て
一	1	○学習の見通しをもつ。 ○全文を読んで、文章の構成や登場人物について捉える。	
二	2	○人物の言動に着目して、その人柄や心情を読み取る。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>B⑦</b> 考えを広げる対話になるように、ペア、グループなど、話し合いの形態を工夫する。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>B⑮</b> グループ内で考えを交流し、自他の考えを整理して考えた上で、自分の考えを書かせる。</p> </div>
	3	○父親に対する「私」の思いを考える。	
三	4	○実生活を振り返り、人生を変えてくれた人（影響を与えてくれた人）について、随筆の構成メモを作成する。	
	5	○構成メモを基にして随筆を書く。	
	6	○書いた随筆をグループで読み合い、交流する。  ○単元の学習を振り返る。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>A⑯</b> 振り返りの視点を示すことで、自分の学びのよさや課題に気付くことができるようにする。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>A⑰</b> 単元の学習を通して、どのような力が身に付いたか振り返る場を設定する。</p> </div>

## ④ 振り返る

## ■生徒の変容と指導との関連を考える。

本単元で目指した生徒の姿（記号ウ、オ、ク）を実現することができたかどうか、実践を通して見られた生徒の様子について、振り返りを行った。（○成果、●課題）

主に 主体的な学び ウ 学習を振り返り、自分が学んだことを理解している。

A⑩振り返りの視点を示すことで、自分の学びのよさや課題に気付くことができるようにする。

○これまでは、授業の感想を記述するにとどまっている生徒の割合が高かったが、振り返りの視点を示したことで、自分の学びについての振り返りを記述できるようになった。

A⑪単元の学習を通して、どのような力が身に付いたか振り返る場を設定する。

○単元の終わりに、身に付いた力について振り返る時間を設けた。振り返りの記述の中に、自分の学びの変容や課題について記述する生徒が増えた。

主に 対話的な学び オ 対話を通して多様な考えを得て、自らの考えを広げている。

B⑦考えを広げる対話になるように、ペア、グループなど、話し合いの形態を工夫する。

○ペア、グループだけでなく、席を移動して学級の三人以上の人と対話するなど、形態を変えながら対話をさせた。その中で、生徒は互いに考えを出し合い、自らの考えを広げていくことにつながった。以前は、特定の生徒が発言し、他の生徒は話を聞いているということが多かったが、対話的な活動を多く取り入れたり、話し合いの形態を工夫したりしたことで、話し合いが活性化してきていると感じた。

●生徒が互いに考えを出し合うことができるようになってきたが、他者の考えをそのまま受け入れてしまう傾向があるので、今後は考えを深める活動にするための手立てを取り入れていく必要がある。

主に 深い学び ク 学習の中で得た情報を精査し、自らの考えを形成している。

B⑮グループ内で考えを交流し、自他の考えを整理して考えた上で、自分の考えを書かせる。

○対話的な活動を行う中で得た他者の考えも踏まえて、自分自身の考えをもたせるようにしたことで、生徒は教材文を何度も読み返し、作品を深く味わうことにつながった。



単元名：君は〇〇を知っているか ～評論文を書こう～

教材名：君は「最後の晚餐」を知っているか（光村図書2年）

単元の目標：①学習内容に興味をもち、他者の文章の書き方を自分の表現に生かそうとする。

②社会生活の中から題材を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめることができる。

③自分の考えが効果的に伝わるように、観点を決め、根拠を明確にして書くことができる。

④相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解することができる。

■生徒の実態を把握する。

「生徒の姿チェックシート」で、過半数の生徒ができていると思われる項目にチェックを付けた。チェックが付かなかった項目は、以下の通りである。

主に 主体的な学び	… なし
主に 対話的な学び	… カ
主に 深い学び	… キ , コ



■指導事項（身に付けさせたい力）を明確にする。

生徒の実態を踏まえ、以下の指導事項を指導することにした。

〔B書くこと〕

ア 社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。

〔B書くこと〕

ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。

■教材を分析する。

この教材は、解剖学、遠近法、明暗法などの科学的知識を駆使して描かれたレオナルド・ダ・ヴィンチ作「最後の晚餐」の魅力述べた評論文である。筆者がこの絵を「かっこいい」と評価する根拠や、論の展開が明確で、説得力がある。そのため、根拠の示し方や論の展開の仕方など、自分の考えが効果的に伝わるように書くときのモデルと成り得る教材である。

② 構想する

■適切な言語活動を設定する。

教材文の根拠の示し方や論の展開の仕方などをモデルとして、自分の考えが効果的に伝わるように、表現を工夫して評論文を書くという言語活動を設定した。

■単元全体や1単位時間の指導計画を立てる。

①つかむの段階で使用した「生徒の姿チェックシート」でチェックが付かなかった項目を基に、本単元で改善を目指す生徒の姿を決定した。「主に 主体的な学び」の項目でチェックが付かないものはなかったが、「イ 自分の考えをもって、粘り強く学習に取り組もうとしている」生徒を更に増やしたいと思い、手立てを取り入れることにした。

	本単元で改善を目指す生徒の姿	「手立てシート」に示された手立てを基にして考えた手立て
主に 主体的な学び	イ 自分の考えをもって、粘り強く学習に取り組もうとしている。	A⑪考えるためのヒントを用意し、利用しながら一人で考えられるようにする。
主に 対話的な学び	カ 対話を通して多様な考えを得て、自らの考えを深めている。	B⑯評論文の題材別に班編成を行い、互いの作品を評価する場を設定することで、自らの考えを深めることができるようにする。
主に 深い学び	コ 自分が学んだことを、日常生活や社会生活、他教科の学習につなげている。	C⑫単元で学んだことを、実生活や他教科の学習の中でどのように生かすことができるかを記述させる。

※記号ア～コは、「生徒の姿チェックシート」の記号に、A①～C⑮は、「手立てシート」の記号に対応している。

指導計画（全 6 時間）

※本単元で目指した「生徒の望ましい姿」に対する手立て…



③ 実践する

	時間	学 習 活 動	手 立 て
一	1	○「最後の晩餐」の魅力を伝える文章を書く。 ○評論文のモデル文を読み，学習の見通しをもつ。	
	2	○説明的な文章の文章構成を確かめる。 ○筆者の「科学的な見方」をつかむ。	
	3	○筆者の「全体と細部に注目する見方」をつかむ。 ○評論文の書き方を確かめる。	
二	4	○友達に魅力を伝えたいと思うものを決め，対象を分析する。  ○評論文の構成メモを作る。	A⑩ 考えるためのヒントを用意し，利用しながら一人で考えられるようにする。
	5	○構成メモを基にして，「君は〇〇を知っているか」という題で評論文を書く。	
	6	○班で作品を読み合い，互いにアドバイスをする。  ○単元の学習を振り返る。	B⑬ 評論文の題材別に班編成を行い，互いの作品を評価する場を設定することで，自らの考えを深めさせることができるようにする。  C⑫ 単元で学んだことを，実生活や他教科の学習の中でどのように生かすことができるかを記述させる。

## ④ 振り返る

## ■生徒の変容と指導との関連を考える。

本単元で目指した生徒の姿（記号イ、カ、コ）を実現することができたかどうか、実践を通して見られた生徒の様子について、振り返りを行った。（○成果、●課題）

主に 主体的な学び イ 自分の考えをもって、粘り強く学習に取り組もうとしている。

A⑩考えるためのヒントを用意し、利用しながら一人で考えられるようにする。

○友達に魅力を伝えたいと思うものを決め、対象を分析する活動を行う際、ヒントを用意し、必要に応じて利用できるようにしたことで、課題に向き合い、粘り強く取り組む姿が見られた。

●一人で活動に取り組むようにしていたが、いつの間にか、周りとの対話を始める生徒が見られた。一人で考える時間を設けた後、対話する場面を設定しても良かったのではないかと感じた。

主に 対話的な学び カ 対話を通して多様な考えを得て、自らの考えを深めている。

B⑯評論文の題材別に班編成を行い、互いの作品を評価する場を設定することで、自らの考えを深めることができるようにする。

○これまでは、座席を基準にしたペアやグループでの対話が多かったが、今回は、評論文の題材別に班編成を行い、自他の意見を整理させた。同じ題材で書いているということで、対象について述べる観点等についても交流することができ、ものの見方や考えを広げ、深めることにつながった。

主に 深い学び コ 自分が学んだことを、日常生活や社会生活、他教科の学習につなげている。

C⑫単元で学んだことを、実生活や他教科の学習の中でどのように生かすことができるかを記述させる。

○単元での学びを、実生活の中で、あるいは他教科の学習の中でどのように生かすことができるかを認識させるために、振り返りの視点を示して記述させた。具体的な活用場面についての記述が見られ、目指す生徒の姿の実現につながったと感じた。

①  
④ 繰り返す

B校の「授業の質的改善のプロセス」の紹介はここまでですが、次の単元以降も

①つかむ → ②構想する → ③実践する → ④振り返る

の手順を繰り返して、授業の質的改善が行われています。



## 授業の質的改善に取り組まれたB先生のコメントをご紹介します。

今回、プロジェクト研究に参加して、授業づくりの見直しや生徒への手立ての工夫ができました。今まで、生徒に身に付けさせたい力があっても、授業の中でどのような形でどのような活動を取り入れればいいのか悩み、教材研究にあまり時間を割くこともできず授業を進めてきました。しかし、生徒の実態を把握するためのアンケート調査や「生徒の姿チェックシート」を活用し、生徒の状況を押さえた上で単元の計画を立てたり、言語活動を設定したりして、私自身見通しをもって授業に臨むことができました。他の先生方からたくさんの助言も頂き、大変勉強になりました。実際に授業をやってみると、生徒が生き生きと活動し、最後までやり切っている姿を見ることができ、授業づくりの大切さを改めて感じました。

